

石手川 緑地整備事業



事業の目的

松山市の中心部を流れる1級河川石手川は、松山城城主加藤嘉明が、松山城築城時に重臣足立重信に命じた河川工事によって付け替えられたもので、松山城の外堀の機能をもったものでした。それから約400年経った現在、石手川は河川敷を利用した緑地として整備され、レクリエーションや朝夕の散歩など、多目的に利用される市民憩いの場となっています。

しかし石手川緑地は河川敷という特性から、開園してからあまり手を加えることができず、今日では施設の老朽化が著しく、また少子高齢化・生活の多様化など、新しい社会環境の変化への対応も迫られています。そこで今回私たちの子や孫へ、さらにはその先まで受け継がれていく「緑の遺産」として、市民提言をもとに石手川緑地全体の整備を実施していきます。

これまでの経緯

「松山市緑の基本計画」において、石手川緑地は「松山市の骨格軸であり、海—平地—山を結ぶネットワーク軸（水と緑の軸）として緑の保全・創出、親水性の向上」を図る緑地に位置づけられています。

また愛媛県が主体で行っている石手川環境美化推進協議会において、石手川環境美化宣言が採択されており、美しいまちづくりを進めるために石手川の適正な利用と周辺環境整備を一体的に推進し、良好な水辺空間の創出が求められています。

このような流れを受けて、平成14年度に約8ヶ月間にわたり調査研究が行われた、「育てよう「街のオアシス」」石手川緑地再生をテーマにした「みんなのまつやま夢工房(地域の夢づくり編)」や第4回学生による政策論文募集事業で最優秀賞を受賞した「石手川公園を変えよう～誰もが利用できる、利用したい場に～」などの提言をもとに石手川緑地基本設計が策定されました。